

	資料名	ページ	目次番号	意見箇所	御意見
1	資料1-2ガイドライン			全般	提言が多岐にわたっており、これを全て理解できる機関は少数に限られると思われる。「ひとまずはここを読んで欲しい」を囲みにするなど、メリハリの追加構成にすることはできないか。
2	資料1-2ガイドライン			全般	科学分野（自然史標本を含む）では、本ガイドライン中で「メタデータ」と表現される各標本のテキストデータは「データ」といい、「メタデータ」は各データセット（データのまとまり）の書誌情報（作成者、タイトル、ライセンス等）のことを指す。オープンサイエンス分野でも広くそのように使われているように思う。語の運用の違いで混乱や誤解を招かないよう配慮できないか。
3	資料1-2ガイドライン	4	I	デジタルアーカイブ活動	内容を見ると「役割」と「活用」となっているのでそのまま記載した方がわかりやすい。あるいはデジタルアーカイブ活動の定義をここで行う。
4	資料1-2ガイドライン	6	I-2	デジタルアーカイブ活動	内容を見ると活用となっているので、タイトルはそのまま記載した方がわかりやすい。
5	資料1-2ガイドライン	8	I-3	DA活動	ここだけ省略語であるDAが出てくるのは不自然
6	資料1-2ガイドライン	8	I-3	論点	デジタルアワードでは構築、計画中でも評価されているので、そこも考慮する必要がある
7	資料1-2ガイドライン	9	II-1-(1)(2)	好事例 予算	ここで事例や予算を載せるのは無理があるのでは。一般的な計画例を記載するのは可
8	資料1-2ガイドライン	9	II-1-(3)(4)	人材確保 人材育成	人材確保と人材育成は同じなのでまとめて記載が望ましい。①人材確保面では資料に詳しい人とICTに詳しい人の両者に向け、デジタルアーカイブの基礎的な知識を学ぶために近年開催されている自治体や団体が主催する研修会やセミナーに参加させる。②自機関で専門家を招きデジタルアーカイブのセミナー、勉強会を主催する。③必要に応じて資格を取得する。④他機関でデジタルアーカイブを提供している機関との情報共有を図る。
9	資料1-2ガイドライン	9	II-1-(3)(4)	つなぎ役	上記と基本同じであるが、担当エリア内向けにセミナー、勉強会を開催する。
10	資料1-2ガイドライン	10	II-1-(5)	デジタルコンテンツ	デジタルコンテンツの定義、説明が必要 デジタルデータ メタデータ サムネイルとの関係
11	資料1-2ガイドライン	11	II-1-(6)	長期保存（体制整備）	(4)と繰り返しになるので不要又は内容を長期保存に絞って記載。
12	資料1-2ガイドライン	11	II-1-(7)(8)(9)	情報セキュリティ広報利用分析	情報セキュリティは幅広いが、特に重要なクラウドの記載程度か。広報は様々であるが事例で書くのは大変なので、活用セミナー、SNS・youtube、ポスター等の印刷利用、マスコミへの情報提供 利用分析についてはどこからアクセス（検索エンジン、HPフロント等）されているかが特に重要
13	資料1-2ガイドライン	12	II-2-(1)	プラットフォーム	この言葉の具体的な説明が必要
14	資料1-2ガイドライン	12	II-2-(1)	データは基本的には複雑にせずシン	この記述はシンプルという言葉が明確でないので誤解を招きやすい。公開項目はある程度絞るという意味か。
15	資料1-2ガイドライン	14	II-2-(4)	URI	初出で説明がないままではわかりにくい。略語でない記述と簡単な説明が文章上で必要
16	資料1-2ガイドライン	17	II-4-(1)	コンテンツのデータファイル自体に	利用条件は通常メタデータに記載されることが多い。ここでいうコンテンツのデータファイル自体は例えば画像に埋め込むという意味か。それならメタに記載は簡易なので順番が逆 コンテンツはデジタルコンテンツと同じ意味か
17	資料1-2ガイドライン	18	II-4-(3)	今回の著作権法改正により	ここ数年改正があるので、今回は不明確である。具体的な改正年度を記載
18	資料1-2ガイドライン	19	II-4-(3)	実際に際し出展や所蔵館等の表記を正	今まで、できるだけCC0を推奨しておきながら、ここではCC BYでの利用を求めるような記述になっているため違和感がある。考え方の統一が必要
19	資料1-2ガイドライン	19	II-4-(4)	デジタルコンテンツのオープン化	オープンガバメントの文脈で、ライセンスとして政府標準利用規約（第2.0版）を用いる場合にも配慮し、補足資料だけで無く、CC BY互換の利用可能なライセンスとして追加できないか
20	資料1-2ガイドライン	21	II-4-(6)	非圧縮か可逆圧縮の	非圧縮ファイルを唯一の保存ファイルとして維持するのは現実的かの検討が必要である。可逆圧縮は必要なので「非圧縮及び可逆圧縮の」又は「可逆圧縮」の記載に変更しては
21	資料1-2ガイドライン	22	II-5	長期保存ガイドライン	長期保存ガイドラインは別途維持が必要と思います。
22	資料1-2ガイドライン	24	II-5-(3)(4)	マスターデータと保存用データ	両者の言葉は同じ意味か、違うなら説明がないとわかりにくい
23	資料1-2ガイドライン	28	II-6-(1)	①~③	どこの①~③か
24	資料1-2ガイドライン	28	II-6-(1)	費用的に割高であり	割高というのは無駄があると捉えられるので 一定の費用が必要と訂正
25	資料1-2ガイドライン	29	II-6-(3)	メタデータ要素	このメタデータ要素と23pのメタデータ項目が違うものなのか
26	資料1-2ガイドライン	31	II-6-(7)	対応したパッケージソフトウェアは	本当に少ないでしょうか 現在はある程度のシステムでは対応していると思えます。
27	資料1-2ガイドライン	31	II-7	役がアセスメントツールで自己点検	広報連携面の記載が不足している。
28	資料1-2ガイドライン	32	II-7	保護対象にならないデータやCC0	この記述は4(3)にも出てくるが、「行うのが望ましい」では強すぎる。「理解を求めることが必要」程度か
29	資料1-2ガイドライン	33	II-7-(4)	せんだいメディアテーク	ここだけ具体的な事例が出てくるのは違和感がある。事例を付けるならまとめて
30	補足資料1用語集				識別子用語に追加し、永続的（な識別子）についても触れてほしい
31	補足資料2確認すべき標準・ガイドライン等			Darwin Core	Darwin Coreはメタデータ標準では無く標準的なvocabularyなので、「生物多様性に関する情報を記述するために用いられる標準的な語彙。生物の標本・観察データ等のデータ項目でも使用される。」といった書き方が良いと思われる（※生物多様性分野における「データ」は、本ガイドラインにおいては「メタデータ」と呼ばれているため、語句は必要に応じて調整いただきたい）。

アセスメントツールに関する御意見フォーム

	大項目	小項目	意見箇所	御意見
1			活王者/拡げ役 システム関係の縦項目	システム関係が独立しているが、必須項目とチャレンジと別途にしたのはシステム機能がメインであるからなのか。このことで全体的に対象者別になっているのにこの項目だけは内容別になっていて大変わかりにくい。分ける必要はないと思います。拡げ役の項目もその役割なのかそれに対しての機能なのか項目によって不明になっているため、機能であるなら必須項目かチャレンジ項目に割り当てた方がわかりやすい。7の③のみが拡げ役の役割
2	1	①	記載があるとか計画がある	記載や計画を策定中も加えては つなぎ役にもビジョンや戦略計画は必要
3	1	②	デジタルコンテンツ拡充のための	メタデータを外部委託する場合もあるのでここはデジタルデータと記載
4	1	②	デジタルコンテンツ拡充のためのコンテンツの公開継続とメタデータ連携に必要な予算	このふたつではデジタルコンテンツの公開継続は必須項目 メタデータ連携に必要な予算はチャレンジ項目なので分ける必要がある
5	1	②	デジタルアーカイブを維持するための予算	「デジタルアーカイブの維持予算」とその後の「デジタルコンテンツの公開継続予算」の違いが分かりづらい。システムとコンテンツなど、分かりやすく区別できないか。
6	1	②	デジタルコンテンツの公開継続やメタデータ連携に必要な予算を確保している。	「メタデータ連携に必要な予算」が、何を指すのかよくわからない。連携している自館以外のデータベースからの公開という意味か？
7	1	③	複数の担当者や専任の担当者	ここはチャレンジ項目
8	1	③	システム担当を配置している	または外部委託しているとして、必須項目とする。
9	1	③	ネットワークを構築・運営できる人材	この「ネットワーク」は、人的ネットワークとシステムのネットワークのどちらを指すのか。
10	1	④	人材育成	ある程度の研修は必須なので一行目は必須とする
11	1	⑤	データの管理や保存のリスク	これは必須項目 組織的な取り組みの部分はチャレンジ項目 活王者は必要ない
12	1	⑥	定期的に状態を確認できる体制	定期的に状態を確認している と訂正し 必須項目
13	1	⑥	データマネージメントができるデータの管理部署がある又は管理者を配置している。	データマネージメントは具体的に何を指すのか。「データの管理部署あるいは管理者を配置している」だけで十分ではないのか
14	1	⑦	情報セキュリティに関する方針・文書	情報セキュリティに配慮している と訂正し 必須項目 方針・文書があればチャレンジ項目
15	1	⑧	日本語以外の言語	これはチャレンジ項目にも必要
16	1	⑨	利用統計等か利用分析	これは必須項目
17	2	①	コンテンツの大部分	これはチャレンジ項目
18	2	①	定期的にメタデータの新規作成や更新	これは必須項目
19	2	③	つなぎ役にメタデータを提供	これはチャレンジ項目
20	2	③	ジャヤパンサーチと連携	これはチャレンジ項目
21	2	④	メタデータフォーマットがデジタルアーカイブ基本マニュアルの必須項目(タイトル(ラベル)/作者(人物)/日付(時代)/場所)に対応している。	自然史系標本は、この必須項目にあわせることが難しい。特に作者(人物)については対応する項目が無い(採集・確認者という項目がある場合があるが、個人情報保護の観点から提供されないこともある)。
22	2	④	全体	S-Netの参加館のように、自館ではメタデータ項目を標準化していないが、ツール等を用いてメタデータを標準的な項目に変換した上でつなぎ役に提出している、という例もある。このようなチェック項目を追加してはどうか。
23	2	⑤	多言語対応	これはすべてチャレンジ項目
24	3	①	一つ目から4つ目まで	これは必須項目
25	3	②	2つ目の 高品質の記述	これは必須項目
26	3	③	3つ目の WEB公開	これは必須項目
27	3	④	2つ目の サムネイルからのリンク	これは必須項目
28	4	④	一つ目の CCライセンス	これは必須項目
29	4	⑥		2つの内容しかないが○を付けるのは3つある。
30	5	①	2つ目 3つ目	これは必須項目
31	5	②	拡げ役の○	拡げ役に5つの○が付いているがここは拡げ役に向けての機能という意味ならば6との関係を整理する必要がある
32	5	②	メタデータの更新	これは必須項目
33	5	⑦	2つ目と4つ目 全てのデジタルコンテンツ	これはチャレンジ項目
34	5	⑧	2つ目 国際標準	一つ目との違いはわからないので明確に記述し、チャレンジ項目
35	5	⑧	3つ目 デジタルデータの抽出	これは必須項目
36	6	②	メタデータのAPI	これはできれば必須項目としたい
37	6	⑤	一つ目	この内容：特に( )内の記載であればチャレンジ項目にも○が必要
38	7	①	4つ目 電子展示会	チャレンジ項目
39	7	①	SNS等を通じて、デジタルコンテンツを使った広報活動を	広報はSNSだけでなく自館のウェブサイトも重要なため、「自館のウェブやSNS等を通じて」としてはどうか
40	7	②	2つ目 イベントを開催	チャレンジ項目
41	7	③	2つ目 イベントを開催	チャレンジ項目であるが②とかぶっている